

宮崎発夢未来～感動の共感を世界中に

みやざき中央新聞

〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉6207-3 info@miya-chu.jp Tel(0985)53-2600 Fax(0985)53-5800

毎週月曜日(第5月曜日は除く)、月4回発行/1か月1,080円(税・送料込)

4月18日(月)

2016年(平成28年)

2644号

1面

山上 敏樹さん……………楽しくソウゾウしよう～No. 1

工藤 房美さん……………奇跡! 余命1か月からの生還～No. 4

藤尾 まさよさん……………沈黙から目覚めへ～No. 6(終)

菊池 恭子さん……………魂を継ぐ～No. 3

橋 こころさん……………ビリギャルを支えたママの話～No. 2

水谷 もりひと……………取材ノート「出会いを『ご縁』に深める」

2面記事

取材ノート

一瞬の出会いを「ご縁」に深める

空港に来ておられた岩崎和尚と会ったのです。

私は和尚に松岡会長を紹介しました。お二人は名刺交換をした後、二言三言、言葉をお互いに入れ、最後に松岡会長が「私と気が合いそうですね。さぞかし今まで悪さもたくさんしてこられたことでしょう」とおっしゃったのです。初対面ですよ。しかも相手は浄土宗の立派な僧侶です。

そう言われて「失礼なことを言う人だ」と憤慨する人も中にはいるでしょう。しかし、さすが修行している人は違います。そこで和尚は大笑いしたのです。

ほんの5分ほどの時間でしたが、その言葉が岩崎和尚のハートを掴みました。

その後、お二人はハガキや電話で交流を深められ、4か月後に自然寺の「花まつり特別講演会」の講師として、特別仏教の信仰が深いわけでもないのに、松岡会長にお話をしてもらい運びとなったのです。

「ご縁」とはこういうものなんですね。「人は出会うべき人に必ず出会う。しかも一瞬遅からず早からず」という言葉がありますが、考えてみれば「出会い」なんて日常に溢れています。

その一瞬の出会いを「ご縁」として紡ぐ人は、「匠の技」を持っているということを感じました。

◎ ◎ 「匠の技」とは、出会った相手のハート

を掴む言葉の一つ一つ、投げ掛けること。そして、その日にハガキや手紙を出して、出会ったことの喜びを伝える、これです。

でも、それだけでは不十分です。もう一つ、「引き寄せ」が重要です。

たとえハガキを出しても返信しない人もいます。あるいは、「おハガキありがとうございました」と、社交辞令的な返信で済ませてしまう人もいます。残念ながらそういう人とは二度と会うことはありません。

ところが、「出会いを大切にしたい」と思っている人同士が出会うと、その想いは互いに引き寄せられ、そこから面白い展開が始まっていきます。

このようにして出会いは「ご縁」となり、人から人へ繋がっていくんですね。

(魂の編集長/水谷もりひと)

先々週の社説で(株)タニサケの松岡浩会長の小冊子のことを書きました。先週の日曜日、その松岡会長の講演会が宮崎市の自然寺というお寺で開催されました。お釈迦様のご生誕を祝う「花まつり」の特別講演会でした。

自然寺は実に風変わりなお寺ですが、住職の岩崎念唯さん(ねんゆい)もかなり風変わりな人物です。そのことは4年前の10月22日の社説に書きましたが、私の最近のブログに掲載したので、みやちゅうのHPを覗いてみてください。

さて、このお二人の出会いに学ぶところがありましたので、ここでご紹介します。

◎ ◎

昨年12月、宮崎市で松岡会長の講演会がありました。その翌日、宮崎空港に見送りに行ったのですが、そのとき、たまたま